

2013年7月31日

(ご参考)

マツダ株式会社
2014年3月期 第1四半期決算説明会
(スピーチ要旨)

執行役員

財務担当、財務本部長

藤本 哲也

1. 総括

2014年3月期第1四半期の総括です。

財務実績は、CX-5、新型Mazda6／アテンザなどSKYACTIV搭載車両の販売拡大により、増収かつ全ての利益レベルで、大幅増益を達成いたしました。

売上高は6,159億円、営業利益は365億円、当期純利益は55億円となりました。

グローバル販売台数は、SKYACTIV搭載のCX-5、新型Mazda6が販売台数を伸ばし、30万1千台となりました。両車種の販売モメンタムはグローバルに拡大しています。

さらに、下期より、SKYACTIV搭載車両第三弾の新型Mazda3/アクセラを、北米から順次主要市場に導入します。

なお、上期および通期見通しについては、今回変更いたしません。足元の主要通貨の為替前提が、期初見通しから大きく乖離していますが、依然として為替動向は不安定な状況が続いており、新興国の景気減速含め、引き続き不透明な事業環境を慎重に見極めているところです。

2. 2014年3月期 第1四半期実績

2014年3月期第1四半期の連結売上高は、前年から1,093億円増の6,159億円となりました。

連結営業利益は365億円と、前年同期に対し347億円の改善となりました。これは主に、円高修正による増益効果とCX-5および新型Mazda6などのSKYACTIV搭載車両による台数・構成の改善が寄与したものです。経常利益は84億円、税引前利益は82億円、当期純利益は55億円でした。

為替レートは平均で 1ドル99円、1ユーロ129円と、前年に比ベドルで19円、ユーロで26円の円安でした。

グローバル販売台数は、SKYACTIV搭載車両が販売台数を伸ばし、前年に対し1千台増の30万1千台でした。

地域別では北米や、ドイツ、英国など主要国が好調の欧州での販売が前年を上回りました。

車種別では、CX-5が全世界で好調を維持し、対前年で36%増の6万4千台を販売しました。また、4月以降導入が本格化した新型Mazda6は、グローバルでの台数増に貢献しています。

続いて、各マーケットの状況について説明します。

まず日本では、エコカー補助金制度終了による反動があったものの、前年並みの5万台の販売でした。CX-5、新型アテンザ、ミニバンなどSKYACTIV搭載車両の販売好調により、シェアは前年に対し0.3ポイントアップの4.3%となりました。

SKYACTIV-Dを搭載のディーゼル車は、市場での高評価が続いており、高い販売比率を維持しています。

北米では、対前年6%増の9万5千台の販売でした。

米国の販売は好調で、対前年8%増の6万7千台でした。フリート販売を抑制し、ブランド価値向上への取り組みを継続・強化しています。

CX-5は、2.5Lモデルを導入したことで、対前年68%増と大きく販売を伸ばしました。

新型Mazda6は本格ローンチを迎え、順調に販売が拡大しています。

メキシコでは、対前年35%増の8千台となりました。CX-5が販売を牽引し、過去最高の販売台数とシェアを達成しました。

欧州では、対前年4%増の4万6千台の販売でした。

厳しい市場環境が続く中、CX-5と新型Mazda6が販売を牽引しました。特に主要国であるドイツと英国での販売が好調です。ドイツでは、対前年16%増の1万1千台、英国では、23%増の7千台となりました。

中国では、対前年20%減の3万7千台の販売でした。

今期は、中国にとってSKYACTIV搭載車両本格導入の年となります。まず、6月末に新型ATENZAの輸入車販売を開始しました。下期から現地生産に切り替える予定です。また、7月より南京工場でのCX-5の生産を開始しました。下期以降の販売拡大を目指します。同時に、地域のモーターショーへの出展など、販売梃子入れ策を継続的に実施、ブランドを強化しつつ、販売の巻き返しを図ります。

その他市場では、対前年5%増の7万3千台の販売でした。

オーストラリアでは、2万6千台、シェア8.5%と引き続き好調な販売となりました。前期に引き続き、CX-5はSUVセグメントでの販売台数1位を獲得、また、メーカー別販売でもマツダ車は3位を維持しました。ASEANでは、タイが、初回購入補助金終了により需要が低迷する中、インドネシア、マレーシアで過去最高の販売台数を達成し、前年並みの販売となりました。インドネシアでは、3列シート小型車のVX-1の販売を開始しました。マレーシアでは、4月にCX-5の現地生産を開始しました。

連結営業利益の前年に対する改善額347億円の主な要因について説明します。

台数・構成では、CX-5、新型Mazda6の販売拡大により、82億円の改善となりました。

次に為替は、USDドルで100億円、ユーロでは65億円、その他通貨は127億円、合計で292億円の改善となりました。

変動コスト領域では、コスト改善の推進により51億円の改善となりました。

販売費用は、新型Mazda6のグローバルローンチに伴う広告宣伝活動強化などにより、11億円の費用増となりました。

また、その他固定費領域では、開発費、メキシコ立ち上げ費用等将来の成長に向けた投資の増加により、67億円の費用増となりました。

SKYACTIV搭載比率の四半期毎のトレンドですが、前年の第1四半期と今第1四半期を比較しますと、今期はCX-5の販売拡大、新型Mazda6の導入により、SKYACTIV比率は27%から45%と大幅に拡大しています。さらに、下期以降の新型Mazda3導入により、今期のSKYACTIV販売比率は50%と、前年対比大幅拡大の見通しです。

新型Mazda3の概要を説明します。

新型Mazda3は、新デザインテーマ「魂動(こどう)」を採用したSKYACTIV搭載車両第三弾です。

構造改革プランを牽引する世界戦略車として、グローバルに展開していきます。

走る歓びを革新したスポーツコンパクトとして、下期より、北米から順次、主要市場へ導入を開始します。

エンジンは、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンに加え、日本ではハイブリッドシステムを搭載し、市場ごとに異なる幅広いニーズに応えていきます。

新型Mazda3は優れた走り、高い環境性能および先進安全技術を広く搭載し、高い商品力を実現しています。これにより、さらなるインセンティブ抑制と残存価値の改善を実現していきます。

また、モノ造り革新によるコスト改善とインセンティブ抑制により、収益改善とブランド価値の向上を期待しています。

3. まとめ

本日の説明内容のまとめをします。

ご説明した通り、CX-5、新型Mazda6などのSKYACTIV搭載車両は、販売および収益拡大に大きく貢献しています。

SKYACTIV搭載車両の貢献により、2014年3月期第1四半期の実績は、売上高6,159億円、営業利益は365億円、当期純利益は55億円と増収かつ全ての利益レベルで大幅増益を達成しました。

このように、構造改革プランは着実に成果をあげています。

さらに、下期より、SKYACTIV搭載車両第三弾の新型Mazda3を、北米市場から順次主要市場へ導入します。これにより、今期のSKYACTIV搭載車両の販売比率は50%と、前年に比べ大幅に拡大し、SKYACTIVによるビジネス革新はさらに前進いたします。

メキシコ工場建設など新興国事業強化とグローバル生産体制の再構築も順調に進捗しています。

なお、冒頭申し上げた通り、上期および通期見通しの変更はいたしません。

以上で説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。